

平成2010年 5月 10日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 こだいら菜の花プロジェクト

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

菜の花とひまわりを地域資源として活用しよう

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

多摩地域は農地の減少がめざましく、市民が関わって農地保全をしていくことが大切です。低利用農地で菜の花やひまわりを栽培し、BDFを精製し使用することは地球温暖化の原因といわれるCO2削減に貢献します。その実践例を示すことで、市民の環境意識の向上につながります。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

市内の低利用農地(花小金井4丁目)で、景観作物として菜の花やひまわり等を栽培し、市民に楽しんでもらいます。栽培は無農薬で、市内の「NPO 法人小平・環境の会」が作製する有機肥料、生ごみ堆肥を使用します。花の時期にはオープンデーを設け、お花見会を催します。花を鑑賞したあとは種を稔らせ、搾油します。それを食用油として販売し、その廃食油を回収して軽油代替燃料(バイオディーゼル燃料=BDF)にリサイクルする研究と実践を行います。学習のための見学会を開催します。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

いちばんの成果は、廃食油を軽油代替燃料(バイオディーゼル燃料=BDF)に精製し、農家のトラクターに入れて畑の耕運をしたことです。菜の花とヒマワリを栽培し搾油し、食べて、その廃食油を燃料にして、それを使って畑を耕し、その畑でまた菜の花やヒマワリを栽培するという資源の地域内循環が実現しました。廃食油は会員のものだけでは足りなかったため、市のエコフェスティバル等で回収して集めました。BDFへの精製は、近くの運送会社に依頼しました。トラクターにBDFを使用するに関しては、国や都の関係部署に確認し、法律に抵触しないよう細心の注意を払って行いました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

2009年度も無事、菜の花とヒマワリを育て油を絞ることができました。BDFを精製し、トラクターでも使用しました。懸案事項であった物置設置もでき、農具や種の保管等に役立っています。助成金をいただいたことで、農具や脱穀機なども揃えることができました。活動しやすい環境整備ができました。菜の花の間引き菜を小学校の給食の食材に使ってもらい、地域の中で連携の輪が生れています。もう1か所、菜の花プロジェクトを行う畑ができました。今後も、さらに活動を地域に広げていきたいと考えています。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

菜種油販売→廃油回収→トラクター耕運

菜の花プロジェクト始動 小平、資源循環目指す

東京都小平市でバイオディーゼル燃料(BDF)でトラクターを動かし畑を耕す取り組みが始まった。市内で栽培した菜の花から絞った菜種油を使用後に回収、精製しBDFとして使う。取り組みを進めている

のは任意団体こだいら菜の花プロジェクト(馬場悦子代表)。農地の景観づくりと資源循環を目指して市民有志が集まった。22日、小平市内の農家の協力を得て、昨年精製したBDFを燃料に約1650平方メートルの畑をトラクターで耕した。約20人が参加して菜の花の種をまいた。

菜種油は小平市内の環境フェスティバルで販売している。こうしたイベント会場で廃油の回収も受け付け、精製設備を持つ運送業者に依頼、BDF化した。

小平市は農業基本構想の推進組織「農のあるまちづくり推進会議」などを通じ、農業への市民参加を進めている。

2009年10月12日ヒマワリ油の袋詰め(上)、4月10日菜の花畑(左下)

5月25日脱穀作業(右下)

